



十文字西 公民館だより

■ 令和3年度－9号
令和4年 1月 1日発行
〒019-0513
十文字町植田字一ト市330
☎ 44-3100 FAX 44-5243

「新年度に向けての西地区交流センター」

十文字西地区交流センター長（兼）公民館長
近 孝 夫



植田・睦合の皆様、あけましておめでとうございます。令和3年度も残すところ約3カ月になりました。特に10月以降は西地区館改修工事等で皆様には大変御不便をお掛けしました。

西地区にとって大変喜ばしいこともありました。それは中村地区出身で神奈川県在住の「イリソ電子工業(株)取締役会長 佐藤定雄氏」より御寄付をいただき西地区館の隣りに「十文字西地区交流館」が建設されました。11月30日にオープニングセレモニーが開かれ、12月1日より利用されております。この交流館は「農家高齢者創作館」機能を備えながら、実兄の佐藤正氏「故人：昭和4（1929）年～平成27（2015）年」が生涯にわたり横手市十文字地区の研究を続け、収穫した郷土資料等を中心に、氏の偉業を称え、各種資料等を展示しております。是非ご覧ください。

令和4（2022）年は寅年の中の「壬寅（みずのえとら）」であり、最近訪れた「壬寅」は昭和37（1962）年で60年前であります。次は60年後の令和64（2082）年と想定されます。壬（みずのえ）はゆったりと曲がりながら流れる大河の水を表しています。寅（とら）は、決断力と才知を意味し、この2つの性質を併せ持つ「壬寅」は安定していて大らかという特徴を持つ干支だそうです。

つまり、「厳しい冬を超えて、芽吹き始め、新しい成長の礎」のイメージだそうです。この「壬寅」の干支に因んで、大河の水のような「大らかさ」と寅の特徴である「決断と才覚」を遺憾なく発揮し、世界が一丸となって、今年こそ「世界恐怖の源であるコロナウイルスを消滅」させ、安心安全な世界を取り戻したいものです。



～ 偉人の言葉に学ぼう ～



◆心に響く「論語」より

「子曰く、君子は諸れを己に求む。小人は諸れを人に求む」

《意味》できた人物というのは、何事にも責任を自分に求める。
ちっぽけな人物は、すぐ責任を他人に押しつけるものだ。

※言い訳、言い逃れ、責任転嫁、責任のなすり合い、人のそういう姿を目にすると非常にがっかりさせられるものです。信用している相手であれば、なおさら裏切られた気持ちになるでしょう。



交流センター事業報告



教養講座(手芸)始まりました!(12/1~3/31)

12月1日から教養講座(手芸)が始まり、パッチワークや編み物、ごてんまり作りと、参加者相互に技術を教えあいながら楽しんでいます。12月9日には講師を迎え、お正月飾りを作りました。新年を迎えるにふさわしい作品に仕上がりに、皆さんは大満足の様子でした!



12/18(土) 第6回十文字バスケットボールフェスティバル開催!

十文字西スポーツ交流センターで、スポ少、十文字中バスケ部、高校生、父兄の選手をランダムでチーム編成し、紅白戦で対決!リラックスした雰囲気の中、久しぶりに親子で交流できたことがとても嬉しく、バスケ後の打ち上げ花火を地域みんなで楽しめて良かったと大好評でした!



新年が地域の皆さまにとって
お幸せな一年でありますよう
お祈りいたします。
今年もよろしくお祈りします。

